

グローバル・カフェ×留学生センター共催「中国&マラウイイベント」を開催しました

2024年11月27日、留学生センターとの共催で「中国&マラウイイベント」を実施しました。さぬきプログラムに参加している中国出身の Sai さんとマラウイ出身の Lindiwe さんより自国の紹介をしていただきました。留学生 17 名、教職員 4 名の計 21 名が参加しました。



Sai さんはまず、中国の帝都(Imperial Capital)について、中国において帝都といえば、歴史的に北京を指すことが一般的で、北京を首都に移したのは、元(Yuan)王朝(1271-1368)(創設者はチンギス・カンの子孫であるフビライ・カン)であったことを紹介しました。元王朝は、中国を統治した最初の異民族(モンゴル人)による王朝で、それまでの伝統的な首都であった長安や洛陽ではなく、北のモンゴルに近い北京を拠点としたそうです。中国最後の王朝は清(Qing)王朝(1636-1912)で、全盛期には新疆(ウイグル)

、チベット、モンゴルも支配し、中国最大の領地を確立しましたが、アヘン戦争、日清戦争を経て、清の最後の皇帝、溥儀(Puyi)が退位し、清が滅亡。1912年に中華民国(Republic of China)が成立したと話しました。

北京市の中心部には、明(Ming)王朝と清(Qing)王朝の皇帝が住んだ宮殿、紫禁城(The Forbidden City)があります。世界遺産にも登録されており、宮殿建築の最高傑作と称賛されているそう。現在は故宮博物館として一般公開されていて、中国最大の観光名所となっています。映画「ラストエンペラー(1987年、イタリア・中国、イギリス・フランス・アメリカによる合作)」が紫禁城で撮影されたことでも有名です。



Lindiwe さんは初めにマラウイの地理について、アフリカ南部に位置する内陸国で、北はタンザニア、南はモザンビーク、西はザンビア、そして東側にはマラウイのほぼ全長にわたって広がっているマラウイ湖と国境を接していることを教えてくださいました。マラウイは多民族国家で、主な民族はLomwe族、Sena族、Chewa族、Tonga族、Tumbuka族、Ngoni族、Yao族で、それぞれ異なる言語を話すそうです。最も人口が多い民族であるChewa族が話すChichewa(チェワ語)と英語が公用語です。

伝統的な料理の一つに「Nsimba with Chambo」を挙げられ、Nsimba は、トウモロコシの粉を水で煮て、餅のようにこねたもので、手で小さく丸めて食べるそうです。マラウイに限らずアフリカ南部で広く食されていて、現地では日本人がお米を食べる頻度と同じくらい Nsimba を食べているとのこと。Chambo はマラウイ湖で捕れる白身魚で、揚げたり、焼いたりして、塩やスパイスで味付けされることが多く、サイドにほうれん草やキャベツなどを添えるのが定番のようです。

この日、Lindiwe さんが着用していたドレスは、マラウイをはじめとするアフリカの多くの国々で使用されている「Chitenje」という綿 100% の伝統的な布で仕立てられたものだそうです。女性の巻きスカート、頭に巻くターバン、赤ちゃんを抱くための布として日常的に使用されるだけではなく、結婚式、葬儀、宗教行事などのフォーマルな場でも使用される万能の布であると紹介されました。Chitenje の柄や色には、それぞれ意味があり民族や地域ごとに異なるデザインが存在し、観光客向けの土産品としても人気が高いと話されました。

